

造園連ながの瓦版

日本造園組合連合会長野県支部
広報委員会
〈〒386-0027長野県上田市常盤城4丁目4-23〉

“現代の名工” 受賞について

塩原 健

2年前に“信州の名工”をいただいた後、今回は厚生労働大臣より“現代の名工”という名誉ある賞をいただくことができ、前回にも増して感謝と共に身の引き締まる思いでいっぱいです。

去る11月11日に早稲田のリーガロイヤルホテル東京で表彰式が行われ、妻と2人で出席してまいりました。今年の造園工では6人の受賞者がいまして、私以外皆さん大先輩の中で大変恐縮しました。



造園の道に入り42年がたちました。20代の頃、6年間の修行時代にアメリカ合衆国オレゴンで6ヶ月間日本庭園を造るという仕事に携わり、その施主のロン・シュナイダーさん（東京オリンピック競泳の金メダリスト）より“Keep it growing”（成長し続ける！）という言葉을 いただいて、それを座右の銘として真摯に庭づくりに取り組んで来た事だけは誇りに思っています。

日本庭園を造る機会が少ない近年では、住宅環境の変化でエクステリアやガーデニングの仕事が増えているのが事実です。私も20年前にはそこに参入する事にためらいはありましたが、ハウスメーカーや建築設計事務所とお付き合いする中で“外構もおもしろい”と思える様になり、積極的に取り組むようになってきました。今では和風、洋風に関わらず、独自のスタイルで庭づくりが出来た様に思っています。その結果、ハウスメーカーのコンクール

や自治体の都市景観賞などで数多くの賞を受賞し、庭の専門誌にも何度か掲載させていただきました。

造園組合連合会では、青年部から37年間、大先輩たちの教えや、同年代の仲間たちと技術を磨きあって多くの友人を得た事が本当に私の財産だと思っています。今回の受賞は八木澤支部長をはじめとして長野県支部の推薦と自社の社員の皆さんや家族の支援があったからと大変感謝しております。本当にありがとうございました。

技術技能講習会を実施して

技術技能委員長 竹村 幸司

令和元年の講習会「ローボルトライティングの基礎知識」を10月27日(日)に松本技術専門校 ふれあい技能センターにて、(株)タカショー北関東営業所所長の玉置 孝志 氏を講師に迎え、参加者21名で開催しました。

講習の概要は * (株)タカショー商品の紹介及び説明 * 新商品の紹介及び説明 * ライトの結線方法及び体験 * エクステリアの現状説明とプランニングの基礎 * ライティングの役割の詳細などを、午前9時より午後3時まで、昼にウォーキング大会を挟んで学びました。



ライティングの新しい知識はもとより、エクステリアの現状とプランニングの基礎などは、営業や自己アピールの苦手な庭師には大変勉強になり、設計や営業のヒントになったと確信しました。またイケメンの熱心な玉置講師と新しい業務展開や情報交

換の機会をさらに望むのは私だけではないと思います。参加者の皆さんはいかがだったでしょうか？

最後に、来年度も多くの人の参加、満足して頂けますよう委員一同準備していきたいと思いますので、ご協力宜しくお願い致します。

技能五輪全国大会を終えて

技能競技対策委員長 田村 清

11月16日～17日の2日間に渡り、第57回大会が愛知県で開催され、小牧市総合運動場において造園競技が行われました。県下からは、南安曇農業高校の生徒1名が出場しました。結果は残念ながら力及びませんでした。1日目の作業進捗はトップと健闘し有意義な大会でした。出場者本人の努力は、言うまでもなく、先生方と中信分会の皆様方の献身的な指導に感服いたしました。



今までこのような機会に携わることが無く他人事でした。私と同様の方の為に、技能五輪大会と今大会の報告をさせていただきます。

大会の目的は、「青年技能者の技能レベルを競うことにより、努力目標を与えるとともに、技能に身近に触れる機会を提供することなどを通じ、広く技能の重要性や必要性をアピールすることにより、技能尊重気運の醸成を図る（抜粋）」とあります。また技能五輪国際大会に係わる選考が行われます。参加資格は、22歳までで、予選

会が実施されない場合は、指定時間内に製作することができると認められる者です。また、参加人数は、隔年で1名と2名に変わります。来年度は、2名1組となります。大会までの事前準備や指導は、南安曇農業高校に於いて、中信分会の牛山氏を中心に、八木澤氏・塩原氏・近藤氏・島田氏・山田氏・宮瀬氏と技能五輪経験者の卒業生を含め指導いたしました。日程は、9月20日に打合せを行い、翌日からの土 日 曜日の両日を1回として計8回、午前8時から午後5時に実施いたしました。

感じた事は、大きく3点程あります。



1点目は出場者の頑張りです。前記した様に、出場枠には社会人も含まれます。経験がないだけに道具の名前や使い方・業界用語を一つ取っても大変な苦労があったと思います。訓練終了後は暗くなるまで反復練習をしていました。又出場者のサポートに同級生の存在がありました。日々の作業準備や記録・要点等をまとめて貰った事が、心の大きな支えとなり、半年間という孤独に耐えうる要因となったことでしょう。二人は、この経験を活かし糧として、これからの人生に大きく役立っててもらいたいです。幸いにも卒業後の進路は、この業界に内定されているようです。今後の活躍を祈念いたします。

2点目は、高校の取り組みについてです。若者の無気力が言われる中、取得単位とは関係なく大会に参加する事は、先生方も大変だと思います。校内の雰囲気も他校とは違う印象で、行きかう生徒も挨拶を怠らないしっかりとした校風を感じました。高校数再編が進む中、この様な取り組みを含め、それ以上にご努力をされていることが

伺えました。

3点目は、中信分会の団結力です。ご指導いただきました方々のご尽力は言うまでもありません。日頃から他分会との違いを感じていましたが、人数もさることながら、その違いの一つが垣間見えました。長年に渡り、青年技能者の育成を通じ担い手の確保や技能向上に多くの時間を割いてこられ、その惜しみない努力が中信分会の団結力の源になっていると感じました。大会終了後の打ち上げでも、その団結力とパワーに圧倒され、自分も頑張ろうと思いました。



最後に、このような機会に参加させて頂き大変勉強になりました。作業手順・丁張のかけ方の一つも十人十色でした。如何に早く正確に仕上げる為の試行錯誤。道具の創意工夫。技能習練。指導方法。学ぶべきものが多かった体験になりました。こうした地道な取り組みが、地域貢献、延いては業界の活性化に繋がると改めて痛感しました。来年の第58回大会は、2名1チームの規定で行われます。委員会といたしましては引き続きサポートさせて頂く予定です。参加資格者おられましたら、お声掛けの程宜しく願いいたします。

ご指導頂きました中信分会の皆様、ご協力有難うございました。お礼申し上げます